

鹿児島市のセーフコミュニティのあゆみ



鹿児島市の重点7分野等の取組と成果

①交通安全

【主な取組】

子ども向け交通安全教育等



自転車シミュレータの実施状況

高齢者向け参加・体験型の交通安全教室等



歩行シミュレーターの活用、夜光反射材効果体験や自動車シミュレーターの活用、安全運転サポートカーの体験を実施して、交通安全の意識を高めました。

安全運転サポートカーの体験状況

【主な成果】

子ども（中学生以下）の交通事故死傷者数

2013年 153人

77.1%減少

2024年 35人

高齢者の交通事故死傷者数

2013年 694人

67.0%減少

2024年 229人

※鹿児島県警察本部（交通企画課）調べ



②学校の安全

【主な取組】

小学校での取組



危険箇所マップの作成状況

中学校での取組



生徒が主体となったキャブテン会議の実施、練習前後の用具点検、入念な準備運動の実施に取り組み、生徒のけが防止に対する意識と行動を高めました。

練習前の準備運動の状況

【主な成果】

校内パトロールの実施校数（小学校）

2017年度 43校

88.4%増加

2024年度 81校

モデル小中学校でのけがの発生件数

2023年度 63件

25.4%減少

2024年度 47件

※保健体育課調べ



③子どもの安全

【主な取組】

家庭内等での事故・けが等に関する情報発信



家庭内の危険箇所マップの作成

体力・運動能力の向上を目的とした活動



幼稚園、保育園等での生活の中に、体力や運動能力の向上を目的とした活動を取り入れ、運動を調整する能力を高め、けがの予防につなげました。

体力・運動能力の向上の活動

【主な成果】

家庭内等での事故・けがに関する情報の発信を行っている団体

2014年度 2団体

35.5倍に増加

2024年度 71団体

※こども政策課調べ

園内での児童の事故・けがの発生件数（1団体あたり）

2015年度 8.5人

55.3%減少

2024年度 3.8人

※こども政策課調べ



④高齢者の安全

【主な取組】

転倒予防及び口腔機能低下予防教室の実施



転倒予防教室の実施状況

認知症サポーター養成講座の開催



認知症について正しく理解し、認知症の方と家族を応援する「認知症サポーター」を養成しました。

講座の実施状況

【主な成果】

転倒予防教室の参加者数

2014年度 5,013人

2.1倍に増加

2024年度 10,483人

※保健予防課調べ

2015年度 32,189人

1.9倍に増加

2024年度 60,649人

※認知症支援室調べ



⑤DV 防止

【主な取組】

市民全般向けのDV防止のための活動



かごしま水族館のライトアップ

●DVの正しい理解と気づきの促進
●若年者に対する予防啓発の充実



【主な成果】

相談先の認知度

2013年度 44.9%

35.7ポイント増加

2022年度

20歳代のDV被害経験者の割合

2010年度 25.5%

10.3ポイント減少

2020年度

80.6%

※事故やけがに関するアンケート

15.2%

※男女共同参画に関する市民意識調査

⑥自殺予防

【主な取組】

ゲートキーパー養成講座の開催



講座の実施状況

●中高年（50～69歳）の自殺者数の減少



【主な成果】

鹿児島市の自殺者数

2013年度 111人

35.1%減少

2023年度

72人

※かごしま市の保健と福祉（人口動態統計）

2013年度 18.3%

6.0ポイント減少

2023年度

12.3%

※かごしま市の保健と福祉（人口動態統計）

⑦防災・災害対策

【主な取組】

避難訓練の充実強化



避難訓練の実施状況

●桜島地域における避難体制の再構築

避難行動要支援者の避難体制の確立



要支援者に関する3者調整会議



【主な成果】

桜島地域における避難マニュアルの認知度

2016年度 71.0%

7.5ポイント増加

2022年度

78.5%

※事故やけがに関するアンケート

2016年度 92.0%

12.9ポイント増加

2024年度

104.9%

※危機管理課調べ

外傷サーベイランス委員会

【主な取組】

アンケート調査等の分析と評価



委員会の実施状況

●外傷データの収集・分析や、取組の評価



救急搬送、医療データの活用

【主な取組】

学識経験者、警察、消防等から構成される委員会において、外傷の発生状況を把握する仕組みを構築し、データに基づく、課題の設定、改善に努めました。



委員会の実施状況

受傷トップ3	平均医療費
股関節大腿近位骨折	約147万円
胸椎・腰椎以下骨折	約120万円
頭蓋・頸椎内損傷	約70万円

合計5年度転倒受傷トップ3

高齢運転者

【主な成果】

ハイリスク集団の見直し（交通事故死傷者の発生状況を分析）

2013年度

2017年度

年々減少傾向が判明し、高齢運転者を第1当事者とする交通事故死傷者の割合が増加

夜間・歩行中の高齢者

